

## 構築工学科の

## 土木工学科と建築工学科への分離

伊藤 富雄

## 1. 経 過

構築工学科は、戦後間もない昭和22年に創設されたのであるが、当初は通常の土木・建築両学科を横割りにして、そのうちの構造学と施工学につき研究ならびに教育を行うのを目的とするものであった。ところがその後、関係者の営々たる努力にもかかわらず、学界および社会の情勢は、構築工学科にとって年ごとに不利に傾きつゝあったが、ついに当学科の拡充改組の必要性が痛感されるに至った。そのおもな理由はつぎの通りである。

1. 産業活動の発展、公共投資の増大にともない、建設工事は隆盛の一途をたどり、高級技術者の需要は年々増大し、したがって構築工学科土木建築両コースの1学年定員合計60名をもってしては、前記の需要に到底こたえることができぬようになった。

2. 本学の所在地大阪は都市の再開発、高潮を始めとする自然災害、大気汚染その他による公害など、土木建築工学上数多くの問題を包蔵しており、これらに対処するための研究の促進と技術者の養成とは、本学に課せられた責務であると考えられる。

3. 学術会議、公務員試験、技術士・建築士・測量士の制度官公庁・会社の職制などいずれを見ても、土木と建築の専門別は分離されている。上記の理由にもとづいて、約10年前より文部省に対し、構築工学の拡充を要望し続けて来たのであるが、学長・学部長はじめ関係各位のご尽力と同情により、昭和36年度から3講座増設の拡充改組が認められ、さらに41年度には、土木工学科と建築工学科への分離と、完成後両学科とも各6講座をもつ

て編成されることが、本決まりになったのである。ここに関係各位に対し衷心より謝意をするしだいである。

## 2. 両学科の内容

あらたにできる両学科の講座編成はつぎに示す通りである。

## 土木工学科

- |                |                |
|----------------|----------------|
| 第1講座 (土木構造学第1) | } 既設4講座をそれぞれ転換 |
| 第2講座 (水工学第1)   |                |
| 第3講座 (交通工学)    |                |
| 第4講座 (水工学第2)   |                |
| 第5講座 (土木構造学第2) | } 学年進行により新設    |
| 第6講座 (土質基礎工学)  |                |

## 建築工学科

- |                |                |
|----------------|----------------|
| 第1講座 (建築構造力学)  | } 既設4講座をそれぞれ転換 |
| 第2講座 (建築構造学)   |                |
| 第3講座 (建築生産学)   |                |
| 第4講座 (建築環境調整学) |                |
| 第5講座 (建築計画学)   | } 学年進行により新設    |
| 第6講座 (建築施工学)   |                |

上記の各講座の中に特色のあるものは含まれておらない。しかしこれは、土木系のみ建築のみでそれぞれ15講座以上を有する大学の少なくない現状では、やむを得ないことであって、上記の各講座は両学科にとって必要最小限のものであるといえることができる。したがって両学科は今後とも少数精鋭主義に徹して健闘を続ける必要があると思われる。(工学部構築工学科教授)